

## 食育や地産地消の推進を目的に学校や保育園へ市内産のぶどうを提供 給食で、おやつで、おいしい秋の味覚に舌鼓



【野尻小】Photo 1 6年生の山元祐人さんは「新鮮で甘くておいしい。こんなにおいしいぶどうを僕も作ってみたい」と笑顔【須木中央保育園】2 おいしそうなぶどうを前にうっとり 3 食べる前には生産者の井野純平さんと先生がぶどうに関するクイズを出題

9月4日、野尻学校給食センター管轄の小・中学校で本市特産のシャインマスカットが振る舞われました。市地産地消推進協議会(東公德会長)が、物価高騰で生産コストが増加している農産物の需要の後押しに加え、食育や地産地消の推進を目的に実施。ほかにも今年度は、メロンやピーマンなどの市内産農産物を学校給食に提供しています。

また、9月18日には須木中央保育園でぶどうに関する食育イベントが開かれました。同協議会の支援を受けて保護者が主催したもので、園児と児童クラブの児童15人が参加。子どもたちはクイズでぶどうの葉っぱの形や育ち方などを学んだ後、おやつとして提供された市内産のシャインマスカットやニューピオーネに舌鼓を打ちました。

## 地域日本語教室 KIZUNA で 屋台や風鈴づくりなど夏を楽しむ

8月25日、TENAMU 交流スペースで地域日本語教室 KIZUNA の夏まつりが開かれました。KIZUNA は、外国人市民の生活を支援し日本文化に親んでもらおうと定期的に開催。外国人市民や地域日本語サポーターなど62人が参加し、手作りの屋台で千本引きや魚釣りを体験したり風鈴づくりを体験するなど、日本の夏を楽しみました。



市地域婦人連絡協議会の協力による浴衣の着付けやいろいろな国の民族衣装の展示・試着も行うなど、さまざまな国の文化に触れる機会にもなりました

## 子どもから大人まで夏を満喫 第3回シン・こばやし夏まつり開催

9月7日、第3回シン・こばやし夏まつり(小林まちづくり株式会社主催)が昼と夜の2部制で開催されました。昼の部は、小林駅横ふれあい広場で大人気の水鉄砲対決や重機体験などを実施。夜の部は、駅南公園を会場に歌やダンスなどのステージイベントのほか、ギョーザ屋台やキッチンカーなどが並び、子どもから大人まで小林の夏を満喫しました。



KITTO 小林的2階では「KITTO COOL」と称したお化け屋敷も開催。例年行列ができるほどの人気で、会場には子どもたちの悲鳴が響き渡りました



## 第1分団第5部が県消防操法大会で優勝！本市消防団として初の全国大会出場へ

8月24日、県消防学校で6年ぶりに開催された宮崎県消防操法大会の「ポンプ車の部」で、消防団第1分団第5部(真方地区等)が見事優勝を果たしました。

当日は猛烈な暑さとなりましたが、団員は練習の成果を十分に披露。指揮者の号令に従い規律の取れた見事な動きを見せました。同団は10月12

日に宮城県で開催される全国大会へ、本市消防団として初めて出場します。

同団の大坪和政部長は「市・西諸・県の大会を勝ち上がり、全国の切符を手にすることができました。県代表として恥じない操法をするとともに、小林市の地域防災力の高さを証明します」と意気込みを話していました。

## まちなかの夜市で夏の思い出作り TENAMU 交流スペースで土曜夜市

8月24日、TENAMU 交流スペースで土曜夜市が開催されました。千本引きなどのゲームが催されたほか、屋台スイーツなどが並びました。会場の一角では、小林秀峰高校の生徒が同校で生産している酸乳飲料「秀峰ドリンク」の販売や子どもが楽しめるゲームの体験コーナーなどが設置されるなど、多くの家族連れでにぎわいました。



毎月同会場で開催されている「てなむおはなしひろば」も同時開催。子どもたちはお化け屋敷風の部屋で聞く「チョット怖いなし」に聞き入りました

## 西諸地区内の中学生6人が ビーチバレーの全国大会へ出場

小林中、三松中、東方中、高原中の生徒6人で構成されたビーチバレーチーム「NISHIMORO U-15」が神奈川県で8月17日と18日に開催された「第15回 全日本ビーチバレーボール4人制中学選手権大会」に出場しました。選手たちは、気温36度を超える炎天下での試合に全力で汗を流し、他県の選手たちとの交流を深めました。



チームは7月にあった宮崎県予選を勝ち上がり全国大会への出場権を獲得。初出場となった今大会では3位グループで準優勝と健闘しました

## 認知症について考えるきっかけに オレンジの花プロジェクト



9月21日の認知症の日（世界アルツハイマーデー）に向けて、市と地域包括支援センター、小林秀峰高校農業科の生徒が連携し、オレンジの花プロジェクトに取り組みました。これは認知症を支援する色「オレンジ」の花を育て、目に触れた幅広い世代の人たちが認知症について深く考えるきっかけになってほしいと企画されたものです。生徒が自分たちで選んで種子から育てた5種類の花を7月に鉢上げ。育てた花の苗は公共施設などに配布したほか、市内デイサービスの利用者らと交流しながら植栽を行うなど、市内各地がオレンジ色の花で彩られました。

▼高校生らが育てたオレンジの花の成長の様子は、市ホームページで確認することができます



Photo 1 認知症サポーターの証「オレンジリング」を付けて鉢上げ 2 地域包括支援センターや公共施設に花の苗を配布 3・4 花の苗は市内デイサービスなどでも配布して利用者と植栽を行うなど、交流を深める活動も実施

## 特色あふれるステージや飲食出店 第3回まつり仲町を開催

9月14日、仲町タクシー乗り場特設会場で「第3回まつり仲町～マジックアワー～」が開催されました。まつりは仲町に店を構える居酒屋の店主やスナックのママらでつくる実行委員会が繁華街を盛り上げたいとの想いで企画。飲食物の販売や市民によるカラオケ大会「歌うま王決定戦」など、仲町らしさあふれるイベントでにぎわいました。



2度目の開催となった歌うま王決定戦では、子ども部門を新設。グループで歌う子どもたちや仮装をして歌う大人などに会場は盛り上がりを見せました

## 紙屋小児童が勇壮な踊りで観客魅了 紙屋地区の郷土芸能「城攻め踊り」

9月14日、紙屋小中合同運動会で4年生から6年生の児童約30人が「城攻め踊り」を踊りました。児童は夏休み前から地区の保存会の指導を受け練習を重ねており、当日は歌い手や鐘を鳴らす人、登り旗と太鼓を身にまとって踊る人など、それぞれの役割で踊りを披露。子どもたちの勇壮な踊りに会場からは大きな拍手が送られました。



紙屋地区の郷土芸能「城攻め踊り」は戦国時代の伊東と島津の争いを唄や踊りで表現した市指定無形民俗文化財で、毎年運動会などで披露されています

## 迫力の音と光で来場者を魅了 第45回すき納涼花火大会



Photo 1 2社の花火師がコラボしたメインイベントの花火 2 須木小児童によるソーラン節 3 元気良く子ども神輿を担ぐ須木中央保育園の園児 4 須木鳥田町地区の郷土芸能いちょう太鼓



9月15日、須木中学校のグラウンドを会場に、第45回小林市すき納涼花火大会（同実行委員会主催）が開催されました。ステージでは須木中央保育園児のダンスや、須木鳥田町地区の郷土芸能いちょう太鼓などが披露され、会場を盛り上げました。富永圭一実行委員長は、「花火だけではなく、須木にはほかにも良いところがたくさんある。これから栗フェアも始まるので、ぜひ多くの人に須木を楽しんでいただきたい」とあいさつ。メインイベントでは、会場すぐ近くの川沿いから打ち上げられる約2千発の花火が頭上高く夜空を彩り、会場には拍手と歓声が上がりました。

## 電気設備をボランティアで点検

9月5日、小林地区電気工事業協同組合のボランティア活動が行われました。これは「電気使用安全月間」にあわせて20年以上続いている活動。当日は、同組合の事業所が市内の公共施設や街灯の切れた電球を交換したり、器具の清掃などを行いました。



## 東方小児童らが河川清掃活動を実施

9月7日、東方小学校児童とその保護者が三之宮峡周辺の河川清掃活動とウナギの放流を行いました。身近にある河川への関心を高め、河川環境の保全や再生について考えてほしいと同校が毎年開催しているもの。参加した児童らは環境問題への理解を深めました。



## 不要になったスーツなど再利用 青山商事株式会社が防災毛布を寄贈

9月13日、洋服の青山などを全国に展開する青山商事株式会社（青山理代表取締役社長）から防災毛布100枚が寄贈されました。毛布は店頭で下取りしたスーツなどをリサイクルし作られたもので、寄贈は昨年につき2度目。贈呈式で洋服の青山小林店の長船栄治店長は「地域の皆さまや市の防災対策に役立ててほしい」と話しました。



毛布は台風10号への対応などでも実際に活用。市長は「毛布は今後も各種災害の備えのひとつとして活用させていただきたい」とあいさつしました